

希望学シンポジウム

「未来社会の健康科学を創造する」を開催しました。

2019年2月27日

このたび、神戸大学大学院保健学研究科・先端融合研究環未来世紀都市学研究ユニット主催で、2019年2月7日(木)神戸大学百年記念館にて、希望学シンポジウム「未来社会の健康科学を創造する」を開催いたしました。当日は15時開始と遅い始まりでしたが教職員、大学院生、学外から総勢65名の参加がありました。

松尾博哉教授の開会挨拶に続き、シンポジウムは東京大学からお招きした玄田有史教授の基調講演から始まりました。ホワイトボードを使った基調講演としてはユニークなスタイルで行われましたが内容も大変興味深いお話しでした。



講演では、WHO神戸センターの茅野龍馬先生、神戸大学大学院人間発達環境学研究科の近藤教授、神戸大学大学院保健学研究科の古和教授に講演をして頂きました。

コーヒブレークの後、全員が壇上に座って総合討論を行いました。国内外の地域差・weak tiesを生かすこと、クリーニング屋さんなど身近な人を介してヘルスケアネットワークにつなぐ可能性、途上国での頭脳流出の問題との関連、日本の世界最高水準の周産期ケアデータを生かす可能性など、さまざまな視点からの白熱した討論が行われ、無事に閉会となりました。

